

自発的に設置したのはわずか5.1%という結果でしたが、最近では、PTAや地域住民、民間団体・企業などが主体となってNPO的なコーディネート組織をつくる動きも少しずつ盛んになってきているようです。

(3)のパターンでは、1976年から仙台市に導入されている「属託社会教育主事制度」が早くから注目されていました。社会教育主事の資格を取得した小・中・高校の中堅の教員が、学校で担任をもちながら、社会教育事業の企画や指導も行い、まさに「学」「社」のつなぎ役となっています。市区町村に目を向けると、「生涯学習推進委員」「生涯学習コーディネータ」「学社連携係」などの名称の担当教員を学校内の職務分掌として決める場合や、公民館の主事、生涯学習推進員、生涯学習指導員らがコーディネータとして機能している場合があります。

これらのコーディネート組織やコーディネータの任務としては、学社融合の企画と学社融合推進のための広報活動が中心となりますが、そのための「学」と「社」におけるニーズや人的資源などのリソースを把握するため、常に情報収集のためのアンテナを広げておくことが求められます。

前掲の国立教育研究所の調査では、こうしたコーディネート組織やコーディネータが設けられている場合には、授業や部活動における地域人材の活用や、公開授業、施設開放などを通じて地域の人々が学校にアクセスする機会が広がる傾向が認められました。また地域の伝統文化の継承、社会教育施設等における子育て・家庭教育講座、青少年の福祉ボランティア活動などの地域を基盤とする学社融合活動も、コーディネータが配置されている場合にはスムーズに進みます。

このようなコーディネート機能を公民館が

担う場合には、地域住民の間のボランティア情報を蓄積しやすいなどのメリットがありますが、業務が多忙になる傾向があるので、人員の配置について十分に配慮する必要があります。これまでのところコーディネータには現職教員や教員経験のある行政職員、社会教育主事らになる場合が多いようですが、今後は、地域の青少年団体や子育てネットワークのリーダー、PTA役員などの経験者をコーディネータに募る工夫も必要でしょう。

Q

学社融合のコーディネータに求められる資質はどのようなものでしょうか。

A

次の4点を強調したいです。第1に、学校と地域社会の現状とボランティア人材について熟知していること。第2に、さまざまな背景をもつ人々とともに円滑に仕事をするができること。第3に、コミュニケーション能力がすぐれていること。広報活動も重要な任務となるため、口頭によるコミュニケーションだけでなく、文書力も重要です。第4に、地域のボランティアや、社会教育団体、PTAなどとともに自らも活動を行った経験があること。

そして、何よりも、子どもたちに「生涯学習の基礎」「心豊かに生きる基礎」を培う最良の学習の場を提供するために、それを支える保護者、地域住民、学校教員、社会教育関係者らを「つなぐ」ことこそが、「学社融合」の趣旨であることを十分に理解していることが重要です。

参考文献

白石克己・佐藤晴雄・田中雅文編『学校と地域でつくる学びの未来』(生涯学習の新しいステージを拓く・2)、ぎょうせい、2001年
今野雅裕編『事例に学ぶ・学校と地域のネットワーク』ぎょうせい、1998年

澤野由紀子(研究代表)『教育の役割構造変容に伴う学社融合連携のパラダイム展開に関する研究』国立教育研究所生涯学習研究部、1999年

(国立教育政策研究所生涯学習政策研究部

総括研究官 澤野由紀子)

家庭教育編

つらい子育て・楽しい子育て

Q

最近、公民館に子ども連れの母親のグループが訪れるようになりました。いろいろ話を聞くと、子育てに不安を持っているようです。若い人が来てくれることはうれしいので、なんとか支援したいのですが。

A

素晴らしいことです。公民館に若い利用者が子どもとともに帰ってくるわけですから。若い親子が公民館に親しみを持つことは、そのまま公民館の未来が開かれることです。施設を輝かせるのは設備ではなく利用者です。確かに、これまで公民館を活用されてきた高齢者との軋轢はあるかもしれませんが、それこそ生涯学習です。

公民館での生涯学習の特徴は、さまざまな人が互いに知り合い、学びあい、教えあうことで得た人と人のつながりに支えられた、未来に開かれた地域を創ることです。身近な地域との関係を避けがちであった若い母親が、みずから進んでくれるわけです。最初は戸惑いもあると思いますが、ぜひ、積極的に受け入れ、人生の先輩との出会いの場を用意

してあげてください。

公民館が子育て支援という未来を創る役割を担えることも素晴らしいです。心配されように、子育てを不安に思う母親が増えています。本来、子育てには楽しいこともあれば、つらいこともあります。公民館を活用される先輩の皆さんはそれを乗り越えてこられました。ただしその際、周りに多くの先輩や友だちがおられたでしょう。物心つくころから、兄弟姉妹や隣近所の子どもの世話もしてきたでしょう。それに、結婚して母親になることは当たり前のことだったと思います。ところが、今、母親の多くは、これらがなくなったなかでの子育てです。自分の子どもが生まれてはじめて抱く幼児という母親も少なくありません。

そのような親子が、身近な公民館に自由に行けるようになればどれだけ心強いのか。そこには経験豊かな先輩がたくさんいて、子育ての知恵を授かることができるわけです。まさに生涯学習の始まりです。

Q

意義は理解しますが、これまでの年配の利用者との関係も心配です。

A

具体的に子育て中の母親の不安の実体を知っていただくことが大事です。その糸口となる言葉を2つ紹介します。

「トイレに1人で行きたい」

「まともな日本語を話したい」

ともに30代の母親からうかがった悩みです。すぐ納得された方は直ちに公民館に子育て支援の場を設けてください。説明が必要な方は、一度若い母親の家庭を年配の公民館利用者と訪ね、その方の子育て時代と比較してください。問題が見えるはずです。

多世代家族に嫁いだ方は、多くの時間を家族の世話に費やし、その疲れをわが子との語らいで癒したでしょう。たとえ核家族でも、隣近所とのつきあいや毎日の買い物で大人との会話に苦労したでしょう。それに、家の端にある暗く寒い和式の便所を子どもは怖がって近づかなかったでしょう。ところが、フローリングの居間の延長マットで飾られた洋式の水洗トイレには、子どもは入ってきます。新婚の若い男女にとって、外部者の侵入を阻むセキュリティシステムに保護された最新の住宅は、まさにスイートホームです。でも子どもができたときに、親子が孤立する閉ざされた世界になります。もう1つ言葉を紹介します。

「ストローで飲めないのです」

1歳の初めての子どもの母親です。わずかも子育ての経験があれば笑って済ませる悩みですが、自分1人で最初の子を育てる方にとっては、悩みのすべてになります。父親が

参加しても妻以上に未経験なら、悩みを増幅させるでしょう。こんなことでなぜ悩むのかと、何気ないことが、育児不安に母親を追い込みます。それでも夫が子育てに参加するのであれば癒されますが、自分の母親の延長にしか妻をみなせない男性であればどうでしょう。片や子育てに、片や仕事に疲れ、互いに癒されることだけ求め、児童虐待への道すら遠くありません。

これは特別なことではなく、だれもが陥ることです。現在の育児不安は、当事者の個人的事情を越えて、より広い社会的な背景から理解しなければなりません。従来、育児の関係は児童館や保健所の役割でした。しかし、だれもが子育てに不安をもつ可能性があるとするれば、より身近な支援の場が求められます。それに、支援の対象は子どもではなく親です。地域の経験豊かな人たちが集まる場である公民館の出番です。

Q

何から取り組みればいいのでしょうか。

A

親としての経験不足に加え、人間関係を培う力が弱く、身近に子育ての相談相手を見出せず、孤立した生活になったとき、育児不安が生じやすくなります。

その解決に必要なのは、親の力不足や責任を問うことではなく、先輩のアドバイスや子育て仲間の人間関係を豊かにし、親として必要な力を育む機会をできるだけ身近な生活の場に用意することです。さらに、このような人間関係をより広く地域全体の教育力とするために、生活の場を共有する人たちの交わりを

基盤に、子育てを支えるヒト、モノ、情報のネットワーク化が重要です。

公民館が担うべき役割は明らかでしょう。これまで地域に根ざした生涯学習の推進拠点としてさまざまな学びを縁とするヒト、モノ、情報のネットワークを築いてきたはずですが、それはそのまま素晴らしい子育て支援のネットワークになります。それを子育て支援の網(ネット)と結び(リンク)、交換(ワーク)すれば完成です。

特別なことではありません。まずは、公民館の一角に親子のための情報コーナーを設けることです。かつて生涯学習推進に取りかかったときに、公民館を利用される方が見やすい場所に、関係する本やポスターや案内ビラをまとめて置いたと思います。これと同じです。子育て関連の情報を加えるだけです。ロビーや廊下の一角に、子どもが転がりたくなるマット(使い古し)を置けば立派な子育て広場です。各部屋に必要に応じて敷けるマットやシートを用意し、ぶつかるとあぶない角に布をまけば、館全体が子どもの城になります。そして何よりも大事なものはヒトです。これまで公民館を利用してこられた方が、そのままアドバイザーに変身していただけるかどうかです。公民館職員の腕のみせどころです。その際に重要なのは、子育ての当事者が日常付き合う人々の間にはられたローカルな支援のネットワークと結び合う(リンク)ことです。実際に、全国のさまざまな地域で、子育てのノウハウを伝え合う母親のグループが活躍しています。父親の子育てサークルも徐々に生まれてきています。それらが互いに結び合い、情報を交換しながら、仲間づくりの輪が広がっています。

先輩たちの活躍も目立ってきました。自分の子育てが終わりに近づくなかで、あまりに

も未熟な後輩の子育てに見かねて声をかけたのが縁で、子育て講座の主催者になった団塊の世代を中心にした支援グループがあります。行政が主催するさまざまな託児ボランティアに参加したり、学童保育や児童館での育児支援、あるいはファミリーサポートセンターなど、新たな子育て支援活動に能力を発揮する先輩も増えています。

このような多様な子育てグループや支援活動が互いに連携をとりながら、男女共同参画を前提とした新たな子育てのための人と情報のネットワークが、全国各地に広がっています。それも各地域単位に育児期の生活圏に密着した買い物、病院、遊び場、公私双方の育児支援などの情報誌の編集・出版、ローカルなFM局の番組を通じての語りかけ、ホームページを舞台にインターネットによる双方向的な情報交換、NPO(非営利組織)としての事業化など、非常に多彩な展開が見られます。

これらのネットと従来の学習ネットが結び合う(ネットワーク)ときに、公民館は新たな地域の子育て支援センターとして、すばらしい力を発揮するでしょう。

参考文献

国立女性教育会館編「男女共同参画、はじめの歩を家庭から」
国立女性教育会館ホームページ
<http://www.newec.go.jp>

(静岡大学 馬居 政幸)

■ とびら まちづくりへの新たな取り組み「千年の学校」 北島 享 P1

◆ 特集 事業の企画・運営—住民からの発想と企画—

■ 実践事例①

市民力を生かす市民企画講座

東京都多摩市永山公民館 P4

■ 実践事例②

公民館事業を支えるボランティアグループ

広島県広島市仁保公民館 P8

■ 実践事例③

公民館事業の企画と運営—地域住民による活動

愛媛県新居浜市大生院公民館 P14

■ 論 考

企画する基本と企画書にまとめる極意

工藤日出夫 P19

■ 参考文献

P23

■ 参考データ

P24

公民館企画Q&A

■ 学社融合編

学社融合のコーディネート

澤野由紀子 P25

■ 家庭教育編

つらい子育て・楽しい子育て

馬居 政幸 P27

公民館ルポ

日本一高い場所にある?
多摩市関戸公民館

絶景かな～!

公民館ロビーに新潮流

東京都多摩市関戸公民館 P30

私のまちの公民館

町民のための 公民館づくり

北海道斜里町

公民館ゆめホール知床 P33

時の話題

奉仕活動・体験活動の推進について

～支援センターなど全国的な体制整備～ 柳 孝 P38

ロビー

社会教育法改正と公民館活動あれこれ

黒崎 匡俊 P41

TOPIC

全公連ニュース

全公連・全振連事務所の移転
第170回理事会が開催されました
全国の公民館関係資料をお寄せください
今後の日程(5月～6月)

P42

行政だより

平成13年度
生涯学習分野のNPOの連携による
まちづくり支援事業シンポジウム

P44

町から村から/ミニデータバンク

P46

■ ファイル 資料紹介/受贈資料リスト P50

■ 編集後記 P52